

# ▲樹里安だより

ジュリアン

2015年  
Vol.35



— 安行の名所 (その22) —

信仰集めた妙延寺女郎仏

妙延寺 《石神967-2》

「有りがたや ここに石神女郎尊 願えばすぐに利益まします」と、御詠歌にまで歌われた女郎仏だが、仏として祀られたのには村民たちの厚い情があったからこそだ。

寛政のころ、石神の山林に病にかかった18、19歳の女性が捨てられているのを村民が見つかり、手厚く看護したが、そのかいもなく息を引き取った。哀れな娘の死を悼んだ村民たちが懇ろに葬り、その後、小じんまりとしたお堂を建立し、供養した。境内には庚申塔、馬頭観世音、不動尊の碑も建てられ、昭和28年には長年の念願が叶い真言宗智山派妙延寺として正式に認証された。

この娘、女郎で梅毒にかかったため捨てられたとか、由緒ある身分の方であるとか、越後新発田藩主の落胤で由あって帰る途中、不慮の災厄に遭ったとか、様々な説が残されている。何時ごろからか女郎仏は下の病に靈験あらたかであると知れ渡って人々の信仰を集めた。信仰心が薄らいだ、といわれる今日でもお参りに訪れる人も少なくない。

# 法性寺のクスノキ (川口市桜町1-11-51)

大きな木だ。胴回り4m60cm、枝張り20m、高さ22~23mもある。法性寺裏山の森の中にひときわ高くそびえるクスノキである。川口周辺では間違いなくトップクラスの巨木で、旧鳩ヶ谷市でなく川口市にあったのだったら、いの一歩に同市の保存樹木に指定されていただろう。

境内の大きなクスノキは、この1本だけでなく左手の墓地の中に1本、右手の道路沿いに2本、いずれも胴回り4m前後、高さ20mを超える大木が根を下ろしている。近寄るとその太さに圧倒されるほどの迫力だ。森の中にあることから植栽されたのではなく、自然繁殖したものとみられ、樹齢は寺の歴史から考えると、500年はくだらないと推測されている。

この寺は、室町時代の武将・太田道灌(1432年~1486年)が創建した天台宗の廃寺跡に明応7年(1498年)、修行のためこの地に旅してきた震龍禅師という僧によって曹洞宗の寺として再興されたと伝えられている。当時、乱世の中であって不安と貧困に苦しめられていた住民たちの救いの場として信仰を集めたが、今日でも多くの信徒に引き継がれている名刹である。

信仰だけでなく、左手の高台は「法性寺山」と呼ばれ、昭和30年代までは小学校の遠足の場などにも使われたほど地域の人たちから親しまれてきた。

墓地の造成によって、今では森は裏山だけに狭められたが、まだ広い面積に残された森にはクスノキだけでなく、スダジイ、シラカシ、タブノキ、ツツジなど、多数の古木、老木が現在も自生しており、うっそうたる緑の自然環境を残している。

この森は、住宅街の中では貴重な存在だととして、昭和54年に埼玉県指定の「ふるさとの森」に、その後平成24年には川口市へ移行する形で「保全緑地」の指定を受けた。

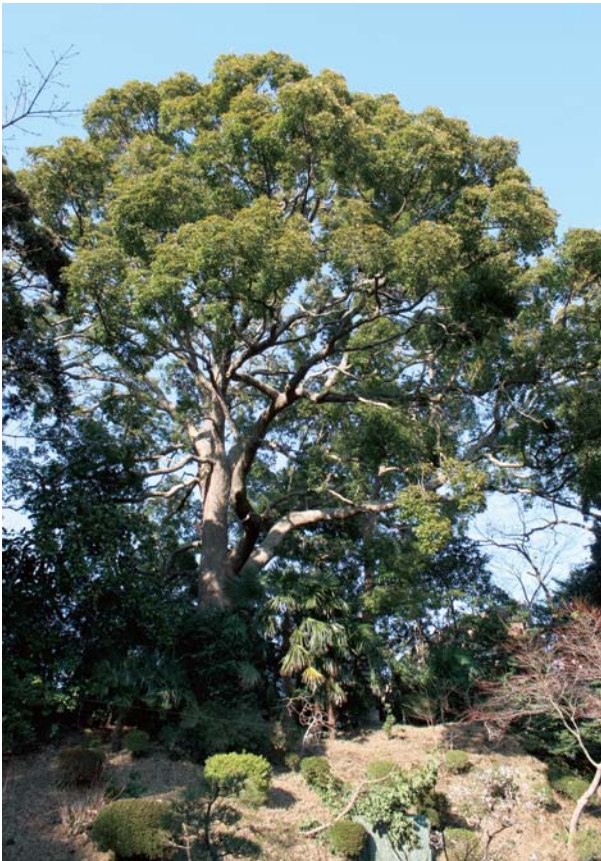
森の緑は人間だけでなく、野鳥にとっても大切なオアシスである。四季折々にウグイス、メジロ、ウソ、ヤマガラ、ヒヨドリなどが飛来し羽を休めている。



# クスノキ クスノキ科

(別名：クス)

- 分布 中国、ベトナム、日本の暖地に分布する。
- 樹高 15m～30m 幹回りは巨樹だと10m～15mにもなる。
- 用途 庭木、公園用樹、街路樹、緑陰樹、建築材、家具材。  
また、昔は樟脳採取の原料とされていた。
- 高木の常緑広葉樹。
- 樹皮は灰褐色で裂け目がある。
- 葉は長さ10～12cm、幅4～5cmの楕円形、上面は濃緑色で光沢があり、  
下面は帯白色、また春先の新芽が吹く時期には葉の紅葉を見ることができる。
- 球形に広がる大きな樹冠を形成する。
- 萌芽力は旺盛で、病害虫の被害も比較的少なく、都市環境に対する適応力が非常に高い。
- 神社や寺には樹齢数百年に達する大木も存在する。



## 法性寺のクスノキ

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在地	幹周	樹高
クスノキ	クスノキ科			川口市桜町1-11-51	4.6m	22～23m



## 《1万年もの歴史を持つ 最古の栽培植物 ヒョウタン》

「ヒョウタン（瓢箪）」といえば、水や酒を入れる容器を思い浮かべるか、または年輩者は豊臣秀吉の旗印「千成ひょうたん」、団塊世代の人たちはテレビの人形劇「ひょっこり、ひょうたん島」をイメージする程度にとどまるだろう。現代では実用的な価値が薄らいで忘れられかけた存在だが、実は1万年もの歴史をもつ世界最古の栽培植物のひとつであり、様々な用途に使われてきた実績がある。

ひょうたんはウリ科の1年生植物、一般的なイメージとしては中央のくびれたものが多いが、長い形のものやフラスコ形、球形などもあり、大きさも大小様々だ。果肉は苦くて食べられないが、同じ仲間のユウガオはカンピョウに加工される。

原産地は北アフリカとされ、紀元前からアジアや南アメリカなど世界各地に渡り、水や酒の容器、お椀（わん）、柄杓（ひしゃく）などの食器のほか、飾り物、楽器、農漁具、装身具、花器などに使われた。ニューギニア高地族では男性のシンボルを



保護する道具としても用いられた。また空洞に異次元を見つけ、神話、伝説、信仰、呪術などにも結び付けられてきた。

日本では、古名は「ヒサゴ」といわれ、福井県の鳥浜貝塚や滋賀県栗津湖底遺跡などの1万年前の遺物包含層から種子や果皮が見つかっている。他の遺跡からも容器やお椀、柄杓などが発掘された。しかも生活用具、装飾品のほか、神社の祭礼、火神、水神を鎮撫する祭具、子供たちの災難除けのお守りにするなどの風習が全国各地に残されている。

近世になって生活様式、生活環境の変化によりヒョウタンの利用価値が下がり、今日では工芸品としての利用が中心であると思われる。川口市安行のある農家の方は「水や酒入れのヒョウタン容器は、実を取ってから完成させるまで1ヶ月近くかかる。手間をかけても売れないので趣味として作り、友人知人にプレゼントしていたが余り喜んでもらえなくなったので栽培をやめにした。ヒョウタン作りもけっこう楽しいですがね」と話していた。

遠ざかったヒョウタン文化を甦らせるのは至難だが、ゴーヤと同じように日除けとして緑のカーテンにして、ぶらりぶら下がるユーモラスな形の実を観賞するのも悪くはない。





# 記念樹にふさわしい木とそのいわれ

## 卒業記念

# ポプラ

(ヤナギ科ヤマナラシ属)  
(落葉広葉樹・高木・陽樹・雌雄異株)



伸びやかな樹形が、卒業式を迎え、将来に夢を託す若者にふさわしい。樹勢力盛んで極めて生長が早いので、人生の厳しさをはね返して、ぐんぐん伸びる若者を思わせる。北海道大学のポプラ並木は有名。卒業という新たな旅立ちに、希望をこめて植樹する。

### 1. 特徴

開花期3～4月、結実期5～6月。生長は早い。

### 2. 植えるときの注意

時期 11～12月・2～3月

場所 日当たりがよく、肥沃な土地に植える。

### 3. 管理のポイント

コウモリガ、カミキリムシなど、穿孔種の害虫に気をつける。



# 川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

## 1 第18回朝顔・ほおずき市

平成26年7月5日(土)～6日(日)

川口緑化センターでは夏の恒例行事となっている、「朝顔・ほおずき市」を今年も1階アトリウム内で開催いたしました。

行灯仕立ての朝顔はさいたま市岩槻区・ほおずきは茨城県よりお取り寄せし、朝顔とほおずき併せて600鉢以上を展示販売いたしました。

会期中2日間は朝早くから多くのお客様が来場者され、朝一斉に咲いた朝顔の光景を楽しみながら品物を購入されました。



～夏休み自由研究教室～

## 2 「親子で育てておいしい夏野菜No.4」

平成26年7月27日(日)

若年層への緑化の普及啓発を目的に夏休み期間中において、親子で参加し、また自由研究の題材としても活用可能な花・緑体験型講座を開催いたしました。4回目となる今年はインゲンマメを題材にクイズ形式の座学とプランターへの植え込み体験、収穫後の調理法の紹介などを行い、親子で25人が参加し、とても好評でした。



## 3 都市緑化研修会

平成26年9月3日(水)

川口市内における屋上緑化用植栽基盤「安行四季彩マット」を活用した屋上緑化の事例や珍しい舗装面緑化の事例等を学ぶ研修会を埼玉県花と緑の振興センターと共催で開催いたしました。

研修会前半は川口緑化センターを会場に座学を実施し、後半は実際に現地の事例を見学いただきました。

当日は37名が参加され、非常に好評でした。



## 4 2級造園施工管理技術検定試験対策講習会

平成26年11月8日(土)～9日(日)

川口緑化センター主催、埼玉県花と緑の振興センター、川口緑化産業団体連合会、一般社団法人川口市造園業協会の共催で、国家資格である2級造園施工管理技術検定試験の受験者を対象とした2日間の対策講習会を開催いたしました。学科・実地両試験に対応した内容で実施、受講者からは大変好評でした。





## 神話・伝説の花と植物

(その3)

花にまつわる神話・伝説は、目に見えない超自然的な霊物への畏敬の念から生まれたものである。神々は非常に人間的で喜怒哀楽を持っているというが、人間がおよびもつかない力と美しさがある。その神々への親しみとあこがれは美しい花や植物と重ね合わされ、語りつがれてきた。

### 【ニンフの怨みの花スイセン】

スイセン属の学名 *Narcissus* はギリシャ神話に出てくる美少年ナルキソスに由来する。その美しさのために多くの森や水のニンフ（妖精）を迷わせたが、見向きもしなかった。その報いだろうか、呪いにより泉に映った自分の姿を美しいニンフと思い込み、自分を愛してしまった彼は、頭を垂れて水面を見つめ続けるうちに、そのまま痩せ衰えて死んでいった。だが、そこには彼の死体ではなく、代わりにうつむきがちな一輪の花が咲いていたという。

### 【マリアの黄金の花マリーゴールド】

聖母マリアの祭日にいつも咲いていることから、マリーゴールド（マリア様の黄金の花）と名付けられたこの花には、不思議な効力があると伝えられてきた。例えば夫を裏切って不倫の恋をした女が行く教会にこの花をおくと、その女は足が進まなくなって教会へ入ることができなくなるとか、何か盗まれた時この花を夜、枕の下に入れておくと夢の中で盗人の姿を見ることができるなど。不倫の女を教会から締め出すという効力が広く信じられていたことは、聖母の純潔への信仰からでもあろう。

### 【恋人に投げ与えた花ワスレナグサ】

昔、ドイツのドナウ川のほとりを一組の若い男女が散策していたとき、川の中の小さな島に咲いている可愛い花を見つけた。男は恋人のために花を取りに行き、花を摘んで引き返したとき急流に巻き込まれた。男は最後の力を振り絞って花を恋人に投げ「私を忘れないでください」と叫んで水中に姿を消した。残された恋人はなき人の思い出に生涯その花を身につけていたという。



ジュリアン

# 樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」  
発行日：平成27年3月15日  
発行：公益財団法人 川口緑化センター  
〒334-0058 川口市安行領家 844-2  
TEL.048-296-4021  
ホームページ：http://www.jurian.or.jp/